

第31回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第31回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月25～26日の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で行われた。男子8階級（7体重別と22歳未満の部）計496人、女子7階級計85人の合計581人がエントリーして、連日各4試合場を熱戦で盛り上げた。

初日の男子は'99バーミンガム世界代表など強豪ひしめく81kg級を秋山成勲3段（26㉥平成管財）が制し、2年連続優勝を遂げた。60kg級の清水義光2段（24㉥平成管財）、66kg級の須藤英雄4段（22㉥ダイコロ）、73kg級の安達春樹3段（23㉥総合警備保障）と22歳未満の部は相牟田豊2段（20㉥自衛隊体育学校）が、それぞれ初優勝した。

女子も57kg級の岡崎綾子2段（23㉥ミキハウス）と52kg級の横澤沙恵2段（24㉥タカメディカル）の2人がそろってV2を飾り、48kg級の小田智子初段（21㉥ミキハウス）はデビュー3年目で初優勝を手にした。初日は男女とも西日本勢が好スタートを切った。男子3人、女子3人の計6人が大阪である。

最終日は男子100kg級で小嶋新太3段（26㉥総合警備保障）が2年ぶり2度目の凱歌を挙げた。100kg超級の向川肇3段（23㉥日本中央競馬会）と90kg級の廣川充志2段（23㉥セコム）は、それぞれ初優勝。

女子は63kg級の南千草2段（23㉥ミキハウス）が3年連続優勝記録を達成した。これは女子の同種目としては大会史上最高である。70kg級の天尾美貴2段（24㉥コマツ）は2年ぶり2度目、78kg級の松崎みづほ2段（22㉥コマツ）、78kg超級の徳田美由樹初段（19㉥コマツ）は、いずれも初優勝。



開会式で挨拶する松本 甫副会長



全国各地から出場した選手が集う開会式



力強く宣誓する江上選手（九州電力）

男子100kg超級 「新鋭向川、大外刈一本」

V3目前の第1シード江上をノーシードのルーキー向川が倒した大一番。江上は伝家の宝刀、袖釣り込み腰で連続して攻める。だが、185cm、125kgの江上に対し、183cm、118kgとやや小柄に見える向川、よく相手を研究しており、体重を後方にかけて釣り上げられるのを防いだ。守るだけではない。組みぎわに放つ大外刈りをあわや江上が体をひねってかわす場面も。息詰まる攻防戦。それでも江上の攻勢が目立つ2分44秒、同じく組みぎわに向川が放った左大外刈り。これがうまく決まって、虚を突かれた江上どんと背中から落ちて一本。ルーキー向川、見事な優勝。

このクラスで活躍が期待された下出、村元、高橋の旭化成トリオが故障のため欠場したのは残念であった。



優勝した向川選手
(日本中央競馬会)

向川の話 試合で対戦するのは初めてだけど、練習はさせてもらっていたので手の内はわかっていた。袖口を取られたら持つていかれるので、組み負けないように注意した。
試合時間4分は短いので初めからガツガツいこうと決めていた。自分の得意技は、大外刈りと内股。これまで全日本ジュニアでの優勝はあるが、シニアの個人タイトルは初めてなのでとてもうれしい。スロースターターと言われるので、もっと早く技をかけることが課題。いま明大で練習させてもらっているが、もっともっと上を目指して頑張りたい。

【成績】

- 優勝 向川 肇(日本中央競馬会)
- 準優勝 江上忠孝(九州電力)
- 第3位 横山勇一(日本道路公団)
- 第3位 藤本博史(日本中央競馬会)

▽準々決勝

- 江上 袖釣込腰 田村(日本道路公団)
- 藤本 優勢勝ち 高森(総合警備保障)
- 横山 小外掛 浦田(日本道路公団)
- 向川 優勢勝ち 中村(日本道路公団)

▽準決勝

- 江上 袖釣込腰 藤本
- 向川 支釣込足 横山

▽決勝

- 向川 大外刈 江上

男子100kg級 「小嶋2年ぶり2度目のV」

これも決勝にふさわしい好ゲームだった。4月の全日本選手権大会3位入賞の小嶋は今回第2シード。新鋭中村は、低く構えて回りながら飛び付いては足取り、背負い、すくい投げ、裏投げと奇襲戦法。いずれも決まらず、小嶋を四つにはわせて背後につく。小嶋は左からの内股で正面から攻める。1分過ぎ両者に「指導」が与えられる。残り19秒、中村が背負いに攻めかけたところを小嶋うまく両手刈りであわせて「有効」。中村あきらめずに追いかけるが終了のブザー。

何が出るか分からない中村の変化技に興味を持たれたが、しぶとい小嶋の勝ち。前年2位をはさんで2年ぶり2度目は立派。



優勝した小嶋選手
(総合警備保障)

小嶋の話 6月30日に待望の男の子が生まれた。井上康生にあやかっつて「洗成」と名前を付けた。今日は優勝したら、これを言おうと思つて用意してたんだ。(言えてよかった!)
初戦の相手(大森II日体大柔友会)は、大学の先輩なのでやりづらかった。中濱君には全日本ジュニアで一回負けていたので、きょうは(内股一本勝ち)それも吹っ切れた。
決勝の中村君には一度対戦済みで勝っている。きょうのは最後に何をやったのかな?(朽木倒し・両手刈り両説あり)あびせ倒した格好みたいになつたね。

【成績】

- 優勝 小嶋新太(総合警備保障)
- 準優勝 中村和裕(京葉ガス)
- 第3位 窪田 茂(旭化成)
- 第3位 永田尚道(大阪府柔道整復師柔道連盟)

▽準々決勝

- 中村 優勢勝ち 近野(総合警備保障)
- 永田 優勢勝ち 向尾(東レ滋賀)
- 窪田 総合勝ち 吉田(十全会聖明病院)
- 小嶋 内股 中濱(京葉ガス)

▽準決勝

- 中村 小内刈 永田
- 小嶋 支釣込足 窪田

▽決勝

- 小嶋 両手刈 中村

男子90kg級 『挑戦者・廣川が近藤V2阻止』

前年優勝の近藤と同3位廣川、シード同士の顔合わせ。近藤右、廣川左のけんか四つだ。開始30秒、廣川がうまく引き手を絞って内股から小内刈りに変化すれば「技あり」に決まる。反撃の近藤、釣り手で背中を持つと内股に行く。廣川かわす。1分48秒、廣川こんどは大内刈りから小内刈りに変化すると近藤たまらず倒れて「有効」の追加点。激戦余すところ1分、互いの衝突で近藤の頭部右側が切れるが、止血手当てをして続行。前より激しい攻防となるが、近藤の反撃及ばずタイムアップとなる。廣川、先輩(中大の同窓)を破つてのうれしい初優勝。



優勝した廣川選手
(セコム)

廣川の話 中大の先輩で、いつも一緒に練習してるから勝ち負けにこだわらず、思い切つてやろうと思つていた。近藤先輩も同じ気持ちだったと思う。中田先輩(今回3位)と近藤先輩と自分と3人いつも練習してる間柄だから、ちよつと複雑な気持ちだったが、今日はたまたま僕の運が良かった。
実は、最近若干気持ちが悪く感じていたところがあったが、今回の優勝でふつされた気がする。再度、上を目指して頑張りたい。

【成績】

優勝 廣川充志(セコム)
準優勝 近藤秀作(日本道路公団)
第3位 中田善久(セコム)
第3位 野田健太郎(福岡大学柔道クラブ)

▽準々決勝

○近藤 背負投 村田(新日鐵)
○中田 送足払 有川(総合警備保障)
○廣川 大外刈 岡本(了徳寺学園)
○野田 内股 斉藤(旭化成)

▽準決勝

●近藤 優勢勝ち 中田
○廣川 内股 野田

▽決勝

○廣川 小内刈 近藤

男子81kg級 『秋山、安定した実力でV2』

第1シード秋山のタイトル防衛戦。挑むは'99バーミンガム(英国) 世界選手権に出場した塘内だ。秋山左、塘内右は、けんか四つ。互いに引き手を取れず30秒で双方「指導」となる。
その後、秋山の左内股に塘内が浮くあたりが1つのヤマ場か?中盤にも秋山の巴投げに塘内の体が一瞬浮いて場内どよめく。しかし、秋山2度目の巴投げは塘内防いで背後につく。残り53秒、双方「注意」のペナルティ。なおも秋山巴投げで攻める。塘内も大内、小内と技を出す時すでに遅し。終始先手を取った秋山に、旗3本がそろった。



優勝した秋山選手
(平成管財)

秋山の話 2連勝したが、内容的には今年の方が難しかった。何と言つても層が厚いと思つた。塘内君は強い選手だし初対決だったが、学年はこっちが2つ上だし、負けるわけにはいかなかった。巴投げは得意技なので、これで決めたかった。準決勝戦の村田君とは、2年前まで同じチームだったが、得意の巴投げが決まつてうれしかった。
今回たまたま優勝できたけど、野瀬君とは当たっていない。彼も強いですし、もっとも自分自身を成長させていきたい。

【成績】

優勝 秋山成勲(平成管財)
準優勝 塘内将彦(旭化成)
第3位 村田龍一(了徳寺学園)
第3位 野瀬英豪(了徳寺学園)

▽準々決勝

○秋山 内股 奥村(神鋼パンテック)
○村田 内股 栗栖(ダイコロ)
○野瀬 警告 丸山(セコム)
○塘内 優勢勝ち 坂本(ダイコロ)

▽準決勝

○秋山 巴投 村田
○塘内 優勢勝ち 野瀬

▽決勝

●秋山 優勢勝ち 塘内

男子73kg級 シードの安達、辛勝初V

東海大学の先輩後輩で、総合警備保障の同門の安達と山本の決勝戦となった。知り過ぎた相手のためか、見るべき技が出てこない。1分、両者「指導」。それでも技の展開がなく、2分47秒には両者「警告」まで進んだ。

残り1分13秒もあるので、このまま行けば両者反則負けの再試合になるかと思われたが、山本の左背負いに安達が浮き、安達も巴投げで山本を浮かせる。残り7秒、安達の右袖釣り込み腰が決まらなかったが、よい所に入った。互角ながら、ここが決め手の印象点。終了のブザーで旗判定は安達に赤3本とも挙がる。



優勝した安達選手
(総合警備保障)

安達の話 後輩相手なので、やりづらい決勝だった。いつもいっしょに練習してるし……。準決勝でも同窓の岩川先輩と当たって勝ちになったけど、終わって気持ち良く笑顔で握手できてうれしい。僕より5年上の先輩。今回は減量もうまくいった。いつも7kg落とすのに、6kgで済んだから(1kgの差は大さい)。これで11月の講道館杯に気持ち良く出場できる。

自分の課題としては攻めが遅いことで、もっと積極的に前に出るような心がけたい。

【成績】

- 優勝 安達春樹(総合警備保障)
 第2位 山本 武(総合警備保障)
 第3位 岩川武久(松前柔道クラブ)
 第3位 吉岡正人(新日鐵)

▽準々決勝

- 岩川 優勢勝ち 野中(平本建設)
 ●安達 優勢勝ち 畑山(高宮接骨院)
 ●山本 棄権 樗木(日体大柔友会)
 ○吉岡 横四方固 野崎(坂井印刷)

▽準決勝

- 安達 大外刈 岩川
 ●山本 優勢勝ち 吉岡

▽決勝

- 安達 優勢勝ち 山本

男子66kg級 ルーキ―須藤の内股さえる

6人のシード中、ただ1人新人の須藤が期待にこたえて決勝も一本勝ちした。須藤左、石川右の組み手争いで始まったが、互いに技が出ず、30秒で両者「指導」となる。このあと須藤が攻勢に移り、石川やや追われ気味。

2分近くなって須藤思い切りよく左内股を飛ばせば、これが見事に決まって「一本」となった。二段モーション式の内股は相手に外させない粘っこさがあった。



優勝した須藤選手
(ダイコロ)

須藤の話 今まで、良いところまで行って負けてたので、この優勝は非常にうれしい。講道館杯も去年は3位だったし……。

今日は、3試合目くらいから必死の気持ちになった。みんな強い人ばかりなので、一戦一戦必ず勝つつもりで試合にのぞんだ。

内村さんに勝った時点で「いけるかな」と思った。社会人となって、学生時代とは気持ちを変えた。自分で練習しないといけないから。11月の講道館はベスト4以内が目標。

【成績】

- 優勝 須藤英雄(ダイコロ)
 準優勝 石川正樹(東芝)
 第3位 内村直也(コウエイシステムズ)
 第3位 鳥居智男(了徳寺学園)

▽準々決勝

- 内村 優勢勝ち 小室(了徳寺学園)
 ●須藤 優勢勝ち 中村(京葉ガス)
 ●鳥居 優勢勝ち 小見川(総合警備保障)
 ○石川 体落 福(福岡大学柔道クラブ)

▽準決勝

- 須藤 優勢勝ち 内村
 ●石川 優勢勝ち 鳥居

▽決勝

- 須藤 内股 石川

男子60kg級 『清水、先手リベンジ初V』

4人シードのうちの第1シード吉岡（3年連続2位のベテラン）と第3シードの清水（前年3位）は、実は前年の準決勝を戦って吉岡が僅差で勝っている。このとき清水は社会人1年目だった。今年は2年目のリベンジ！

吉岡左組み、清水右組みのけんか四つだが、スタートから軽量級らしいスピードある展開。両者とも得意の背負い投げは、引き手を取れないため決まらない。2分30秒、清水が戦法を変えた。巴投げから寝技に誘い、吉岡を返しにかかるが「マテ」。残り30秒も清水左背負い投げ、決まらず。残り5秒、両者ノーポイントのまま。吉岡、双手刈りに突っ込むが終了のブザー。旗は清水に3本の白。吉岡は4年連続V逃がしの無念。



優勝した清水選手
(平成管財)

清水の話 秋山さんみたいに巴投げで決める気はない。あんなにきれいな……得意が寝技で、巴投げから寝技に誘い、下にもぐって、下から回して返す戦法をとった。これを続けてると吉岡さんの息が上がったのがわかった。

講道館杯は今度で4回目、去年は3位決定戦で負けたから5位、これが最高だった。今年6月の太平洋選手権大会では2位になった。この経験で自分は去年より成長できたと思う。

【成績】

- 優勝 清水義光(平成管財)
- 準優勝 吉岡博之(自衛隊体育学校)
- 第3位 鈴木裕介(日体大柔友会)
- 第3位 漆畑 健(東芝)

▽準々決勝

- 吉岡 背負投 松本(セコム)
- 鈴木 優勢勝ち 伊藤(総合警備保障)
- 清水 横四方固 関口(総合警備保障)
- 漆畑 大内刈 久保田(ツクバ計画)

▽準決勝

- 吉岡 優勢勝ち 鈴木
- 清水 優勢勝ち 漆畑

▽決勝

- 清水 優勢勝ち 吉岡

男子22歳未満 『自體校ついに相牟田で初V』

一昨年2位、昨年3位の山田が単独シード権を取った。互いに右組み、奥襟をつかんで渡り合う。180cm、105kgの山田（22歳）に対し、176cm、81kgの相牟田は、やや細身になる。

しかし、相牟田は堂々と立ち向かう。2分46秒、両者に「指導」が与えられる。右手を伸ばし背中を取る相牟田に、山田は右小外掛けを放ったが、相牟田もうつ伏せになつて防いだ。2分57秒、組みぎわに相牟田の右小内刈りで山田横転「効果」となった。残り20秒、山田起死回生の右払い巻き込みは、すっぽ抜けて不発に終わる。終了のブザーを聞いて相牟田、片手で小さくガッツポーズ。

山田は、この種目ついに年齢制限を迎える。



優勝した相牟田選手
(自衛隊体育学校)

相牟田の話 体の大きい人との対戦は、そんなに苦にならない。いつも練習で自分より大きい人と組んでいるから。小内刈りは好きな技の一つ。足技からの連続技をいつも意識している。

このあとは講道館杯に出て上位を目指したい。これまでに取ったタイトルなどない。高校（宮崎日大）時代に金鷲旗大会（福岡）でベスト8に入ったのが最高だと思う。

【成績】

- 優勝 相牟田 豊(自衛隊体育学校)
- 準優勝 山田大樹(セコム)
- 第3位 笠井 睦(帝人・松山)
- 第3位 東濱達也(セコム)

▽準々決勝

- 山田 すくい投 建本(セコム)
- 笠井 上四方固 安達(総合警備保障)
- 東濱 払巻込 宗岡(近畿通関)
- 相牟田 大内刈 瀬尾(新日鐵)

▽準決勝

- 山田 内股すかし 笠井
- 相牟田 合技 東濱

▽決勝

- 相牟田 小内刈 山田

女子78kg超級 「徳田、団体から先手必勝」

出場6人、昨年入賞者の中からはシードの柳花ひとりだけがV3狙い。しかし、その当ては大いに外れた。

開始早々、徳田の内股を柳花が返そうとして失敗、もつれて両者ほぼ団体に倒れ込んだ。このとき、徳田は強引に柳花を裏返し、15秒で後袈裟固めに入り、そのまま25秒押え切って「一本」勝ち。デビュー戦を飾った。

一瞬早く起き上がって先手を取った徳田の身のこなしと闘志が勝因。



優勝した徳田選手
(コマツ)

徳田の話 去年の大会で柳花さんに大外刈りを返されて一本負けしたので、とても悔しかった。その人に勝てたので、とてもうれしい。柔道は小5から始めて、羽黒高(山形)2年のときに春の全国高校選手権大会(個人)で2位。そのときより10kg大きくなって……。全国体重別でなんとか上位にくい込めるよう頑張りたい。

【成績】

優勝 徳田美由樹(コマツ)
準優勝 柳花美鈴(ダイコロ)

▽一回戦

○山田 反則勝ち 空田(東洋観光)
●徳田 優勢勝ち 漆畑(総合警備保障)

▽準決勝

○柳花 優勢勝ち 山田(タカメディカル)
○徳田 優勢勝ち 難波(ダイコロ)

▽決勝

○徳田 後袈裟固 柳花

女子78kg級 「コマツ同士は松崎が先に初V」

第1シードの吉田が松崎に3-0の旗判定で敗れて消え、決勝は松崎と第2シード栗原のコマツ同士となった。「ガンバレ!」の声援もどちらに送っているのかわからない。両者左組みで、互いにやりにくそう。しかし、足技の応酬から1分51秒、松崎が足払いで先に「効果」を取る。松崎さらに勢いをつけて技を出し、残り35秒にも小内刈りで倒し「技あり」は決定的ポイント。栗原も最後に左から背負いに入るなど反撃を見せたが、時間が足りなかった。栗原は2年連続の2位。



優勝した松崎選手
(コマツ)

松崎の話 同じコマツの道場で練習してるから互いに手の内は知っている。やりにくいと言えはやりにくい。しかし、今日の結果で自分がどういう柔道をすればいいのかかわかってきた。同じ左組みの相手に対しては、技が中途半端だった。もっと連絡技を研究して身に付けないといけない。11月の全国女子体重別選手権大会(日本武道館)では、一昨年まで2連勝していたので、もう一度という気持ち強い。

【成績】

優勝 松崎みづほ(コマツ)
準優勝 栗原美幸(コマツ)

▽一回戦

○吉田 優勢勝ち 大久保(セコム上信越)
○松崎 大外刈 長屋(フェザー安全剃刀)
○佐藤 払腰 シンリア(コウエイシステム)
○栗原 払腰 原澤(住友海上)

▽準決勝

●松崎 優勢勝ち 吉田(住友海上)
○栗原 優勢勝ち 佐藤(ミキハウス)

▽決勝

○松崎 小内刈 栗原

女子70kg級 “天尾、2年ぶり2度目のV”

4月の全日本女子柔道選抜体重別（横浜文化体育館）では、1回戦で貝山が天尾を上四方固めに降している。勝負の行方は速断できない。

左対左の相四つ、貝山の気合よく開始35秒、うまく天尾を追い込み、赤畳場外際で小外刈り「効果」の先手ポイント。中盤は袖の絞り合いで互いに技が出ず、天尾の奥襟をとって相手の頭を下げる戦法は貝山よく心得て受け付けず、巧みにかわす。1分30秒、両者「指導」の直後、失点ばん回を狙う天尾が払い腰の強襲。貝山すくい投げで返そうとしたところを巻き込まれて天尾の「有効」逆転となる。残り40秒、貝山大外刈り、内股の猛攻に天尾逃げ腰。「下がるな」の声援が飛ぶほどで危なかった。貝山は4年連続2位。



優勝した天尾選手
(コマツ)

天尾の話 4月の選抜では貝山さんに負けて世界代表にもなれなかつたし、自信をなくしていた。燃えるものがなく、練習でも勝ちたいと思う気持ちになれなくて、やめようかと思つた時期もあった。5月の東アジア大会（大阪市）でもボロボロ負けした。でも新人も入ってきたし、このまま終わるのはいやだったので、気持ちを切り替え、寮も練習場所も変えた。弱気を捨て、苦手意識もなくし、やっと前向きになれた。

【成績】

- 優勝 天尾美貴(コマツ)
- 準優勝 貝山仁美(住友海上)
- 第3位 小取美輪(コマツ)
- 第3位 中尾春菜(西日本警備保障)

▽準々決勝

- 貝山 内股 盛島(総合警備保障)
- 小取 優勢勝ち 外岡(セコム)
- 中尾 優勢勝ち 上野(肥後銀行)
- 天尾 優勢勝ち 石橋(総合警備保障)

▽準決勝

- 貝山 優勢勝ち 小取
- 天尾 内股 中尾

▽決勝

- 天尾 内股 貝山

女子63kg級 “南、2-1の三連勝”

第1シード南と'96アトランタオリンピック代表の一見が、ここでは初対決。南は左組みから内股で先に攻撃、これに対し一見は横捨て身を放つが、ともに効なし。南は一見のもつれに乗じて絞め技で攻めるが「マテ」。

一見の横捨て身は寝技に持ち込む策と思われる。右変形の一見が南を強引に引き付け、動きをとめると2分4秒、南に「指導」が与えられる。その後、お互いに攻めあうがポイントには至らず。終了間際、一見勝ちを意識したが、偽装的攻撃と見なされ、指導を与えられる。タイムアップとなり、旗判定は2-1で南に軍配があがる。



優勝した南選手
(ミキハウス)

南の話 V3は本当にうれいけど、内容的には満足していない。組み手が後手に回り、技の出も遅かった。自分の柔道ができなかった。これからは、もっと欲を出して練習で自分を追い込むようにしたい。そういう練習に励みたい。今日の副賞は、九州からわざわざ応援に来てくれた父親にあげた。とても喜んでくれた。

【成績】

- 優勝 南 千草(ミキハウス)
- 準優勝 一見理沙(コマツ)
- 第3位 藤本哲子(ダイコロ)
- 第3位 植田裕子(ミキハウス)

▽準々決勝

- 南 大外刈 三代(白水製菓)
- 藤本 優勢勝ち 赤岡(ミキハウス)
- 一見 小外掛 柳田(ダイコロ)
- 植田 優勢勝ち 徳久(住友海上)

▽準決勝

- 南 優勢勝ち 藤本
- 一見 優勢勝ち 植田

▽決勝

- 南 優勢勝ち 一見

女子57kg級 “岡崎、技ありの2連覇”

2年連続の決勝顔合わせ。前年優勝の岡崎に対し、窪田(旧姓大塚)も“今年こそは!”の意気込みで立ち向かった。

左相四つの両者、組み合っても技が出ず、30秒で双方「指導」を受ける。窪田の仕掛ける背負いは岡崎かわして絞めで攻めるが、2度とも決まらない。残り1分近く、窪田の体落とし気味の技を岡崎、すばとと谷落しに返し「技あり」。そのまま押え込みに入るが、6秒で解ける。帯を締め直し残り38秒、窪田、必死にばん回せんと攻めるが岡崎防いで時間。



優勝した岡崎選手
(ミキハウス)

岡崎の話 去年は負けが続いていたので気持ちを切り替え、この大会を転機にしようと思った。2連覇ということは意識してなかったが、100%の力を出し切りたい、どんな形でも優勝したいと思っていた。
今回は止まらずに動けたので良かったと思う。目標はオリンピックだが、目の前の試合1つ1つ大阪の世界選手権代表も狙う。

【成績】

優勝 岡崎綾子(ミキハウス)
準優勝 窪田雅子(コマツ)
第3位 山田真由美(コマツ)
第3位 茂木仙子(住友海上)

▽準々決勝

○岡崎 合わせ技 弓田(セコム)
○山田 巴投 黒川(十全会聖明病院)
●茂木 優勢勝ち 植田(ダイコロ)
○窪田 優勢勝ち 秋山(秋山オート商會)

▽準決勝

●岡崎 優勢勝ち 山田
○窪田 大内刈 茂木

▽決勝

○岡崎 谷落 窪田

女子52kg級 “横澤の攻防うまくV2”

第1シードの横澤に対し、最近若干低調気味であった家入がチャレンジ。この日の家入は、初戦から袈裟固め、すくい投げ、巴投げ(有効)と本来の技量を発揮しての決勝進出だ。横澤左組み、家入右組みのけんか四つ、両者互いに引き手取れず、内股、背負いで技を出し合うが、決まるまでに至らず。

1分10秒、引き手を持った横澤が左内股から背負い投げ。家入たまらず巻かれたように横転して「有効」となった。このあと、家入は巴投げ、足技と得意技を連発し失点回復追走戦に入るが、防ぎつつ左大内刈りを出す横澤を攻め切れず、時間。



優勝した横澤選手
(タカメディカル)

横澤の話 連続優勝は正直言っておもしろい。けんか四つだったが、組み手で勝てばいけると言われて。自分でも組み手に自信がある。課題は自分の柔道、一本取れないので、とりあえず得意技の左小内刈りをみがくこと。
去年、この大会の決勝で住友の横澤由貴さんに勝つたのに、その彼女が今年の世界代表になった。ちょっと悔しい気がするが、自分も頑張れば世界を狙えるという自信にもなった。追いかけてい。

【成績】

優勝 横澤沙恵(タカメディカル)
準優勝 家入祐江(コマツ)
第3位 堺 千陽(高宮接骨院)
第3位 海下澄枝(ダイコロ)

▽準々決勝

○横澤 優勢勝ち 鴨谷(コマツ)
●堺 優勢勝ち 有櫛(コマツ)
●海下 優勢勝ち 野尻(コマツ)
○家入 すくい投 猿渡(ミキハウス)

▽準決勝

○横澤 優勢勝ち 堺
○家入 優勢勝ち 海下

▽決勝

○横澤 背負投 家入

女子48kg級 “2位の壁”脱出、小田初V

世界選手権5連覇の田村選手を追いかけるこのクラスは、前年の11人から5人に半減と、ちよつと寂しい。シードの小田は2年連続真壁の“壁”に阻まれて2位ばかりだったが、今年はチャンス。

昨年11月の全国女子では3回戦、三浦をすくい投げ一本で討ち取っている。その三浦は左、小田右のけんか四つで開始。小田は得意の右背負い投げで先攻、56秒早くも内股で「有効」を奪ったが、そのあと戦線こう着状態に陥り、1分29秒の両者「指導」を受ける。中盤から三浦猛烈な内股で攻めるが、小田うまくかわす。さらに残り20秒の猛攻も小田防戦しながら時間となり、初優勝。



優勝した小田選手
(ミキハウス)

小田の話 優勝は狙っていた。体調も良く、体が思い通りに動いた。日蔭(暢年)監督からは「思い切つて前へ出る、絶対に下がるな」と指示されていた。
次は11月の全国女子体重別で優勝したい。自分の課題は今の技が単発なので、もっと足技からの連絡技が出せるよう研究努力すること。

【成績】

優勝 小田智子(ミキハウス)
準優勝 三浦多恵子(タカメディカル)

▽一回戦

○三浦 優勢勝ち 山口(ロマン)

▽準決勝

●小田 優勢勝ち 阿部(コウエイシステムズ)

●三浦 優勢勝ち 小川(セコム)

▽決勝

●小田 内股 三浦



女子48kg級決勝 内股で有効を奪う小田



男子90kg級決勝 小内刈で技有を奪う廣川

熱戦風景



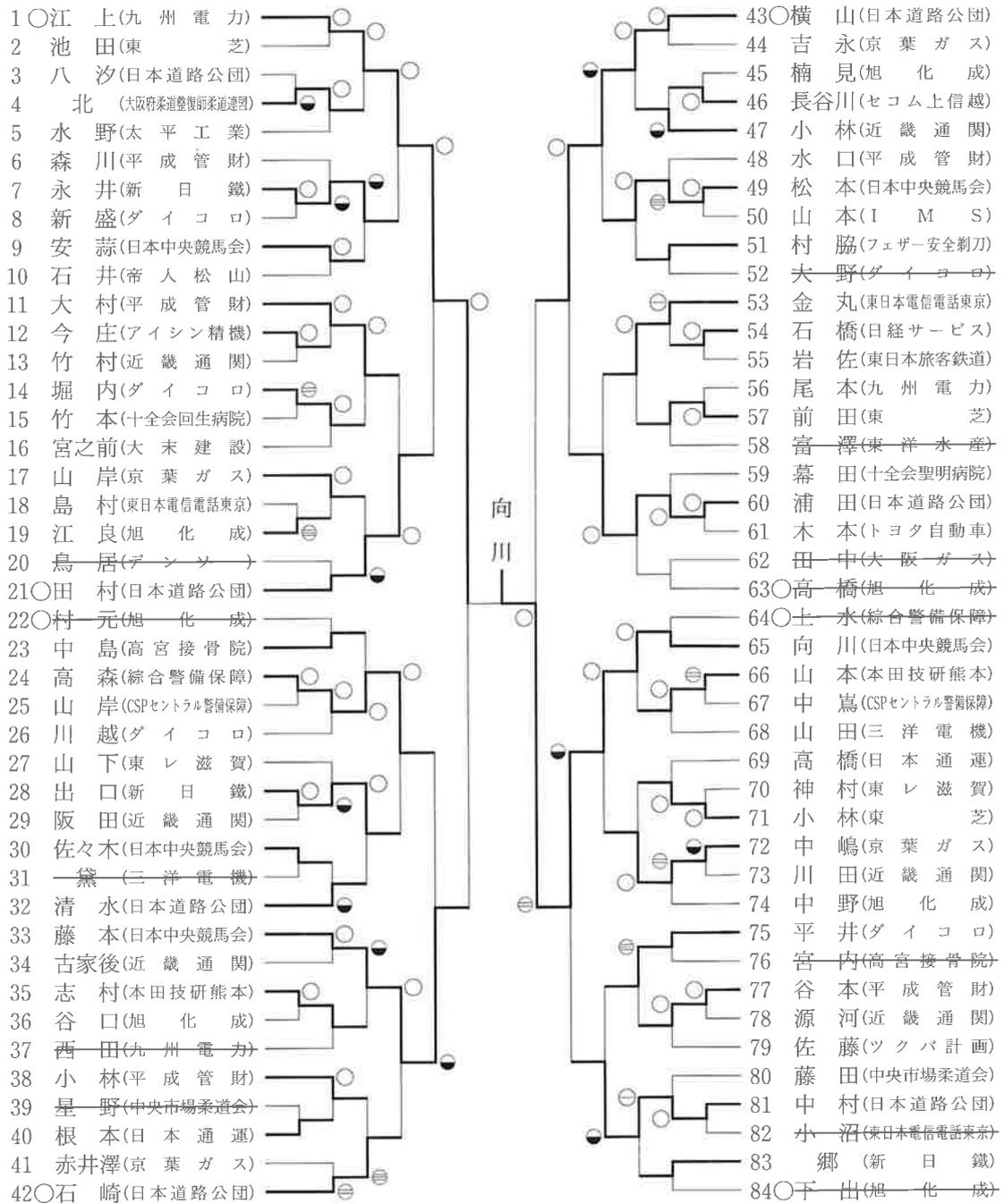
女子78kg級決勝 松崎の小内刈は技有



男子66kg級決勝 須藤の内脇、見事に決まる

成績表

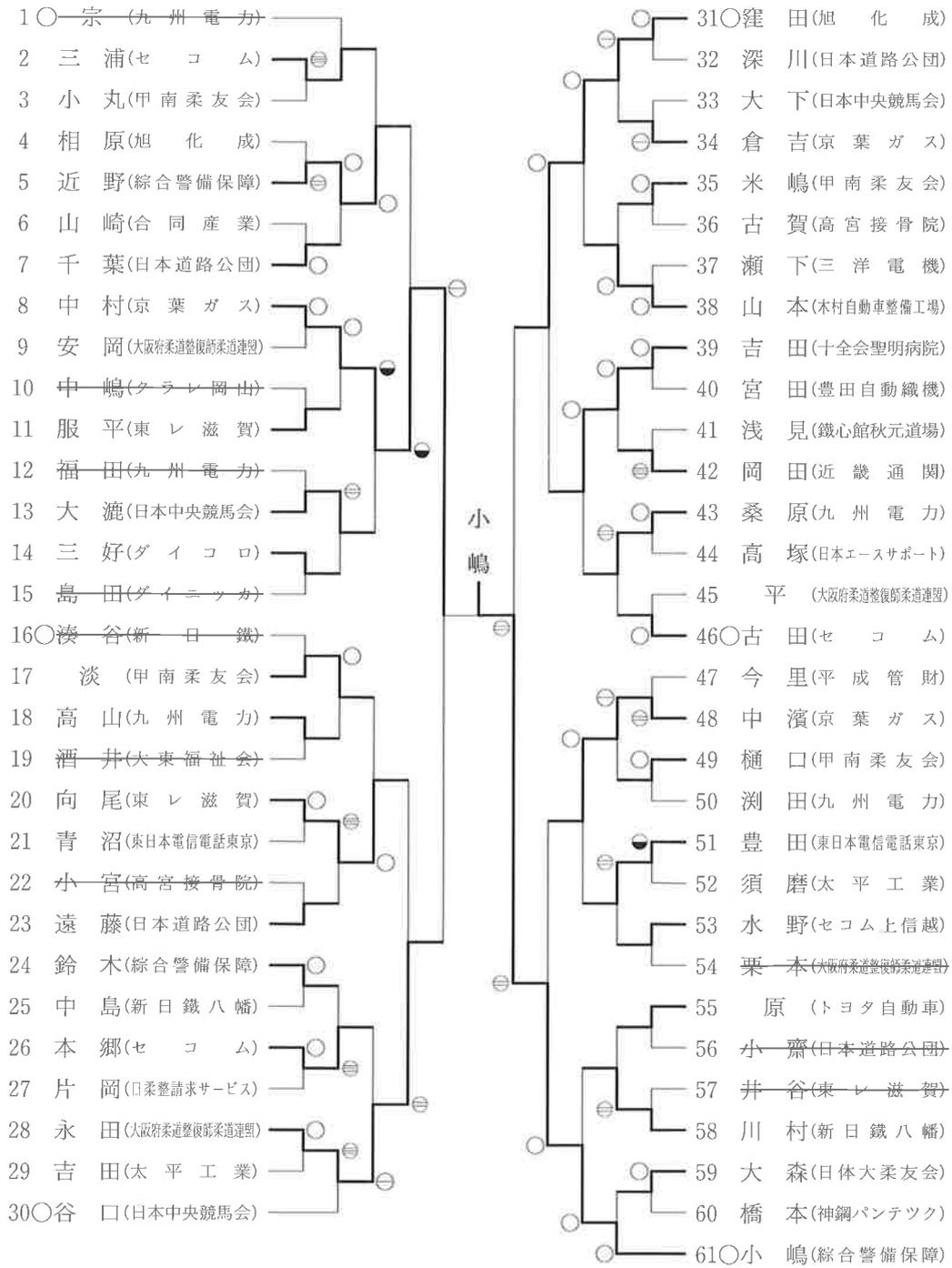
男子100kg超級(84名)



○印はシード選手

成績表

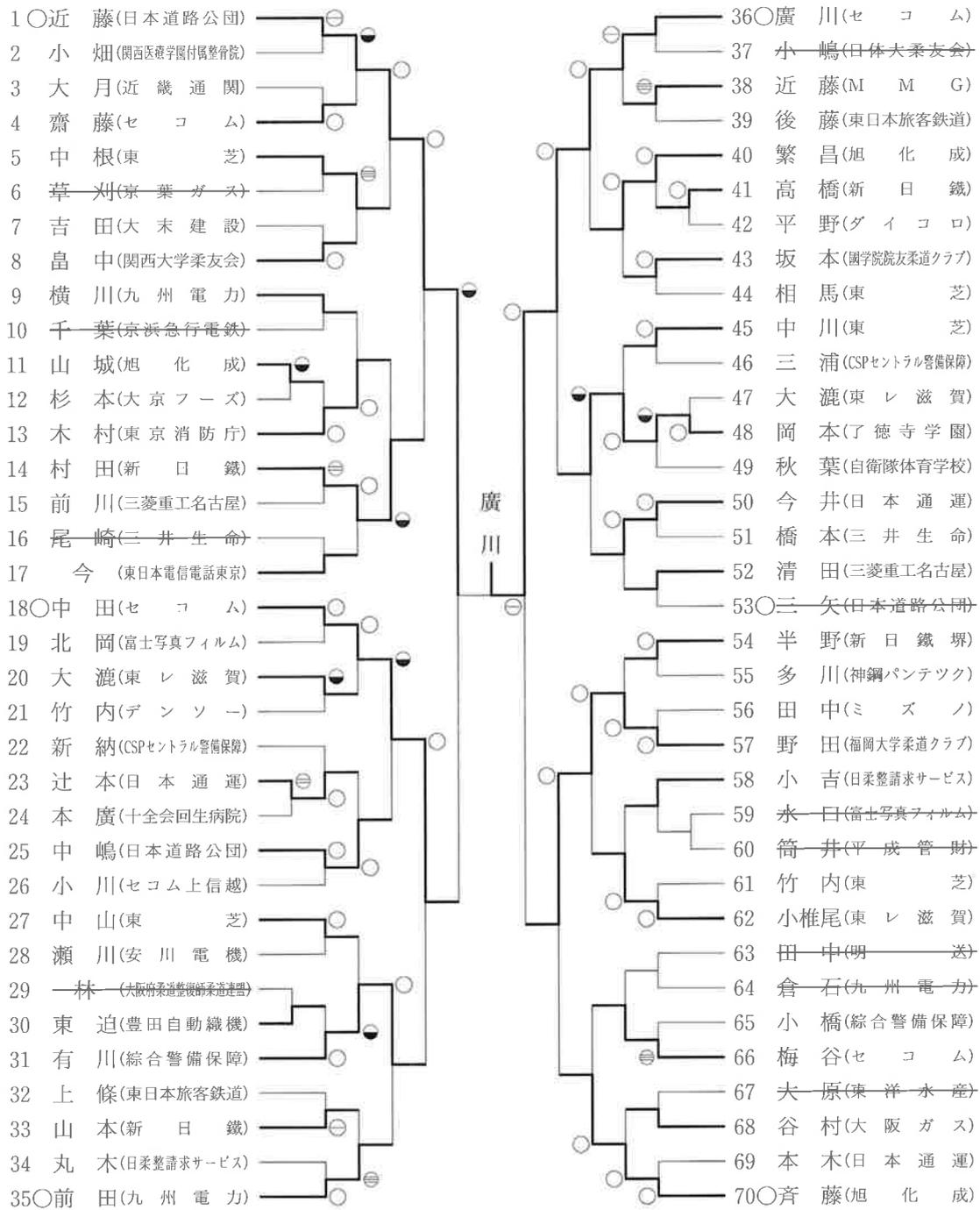
男子100kg級(61名)



○印はシード選手

成績表

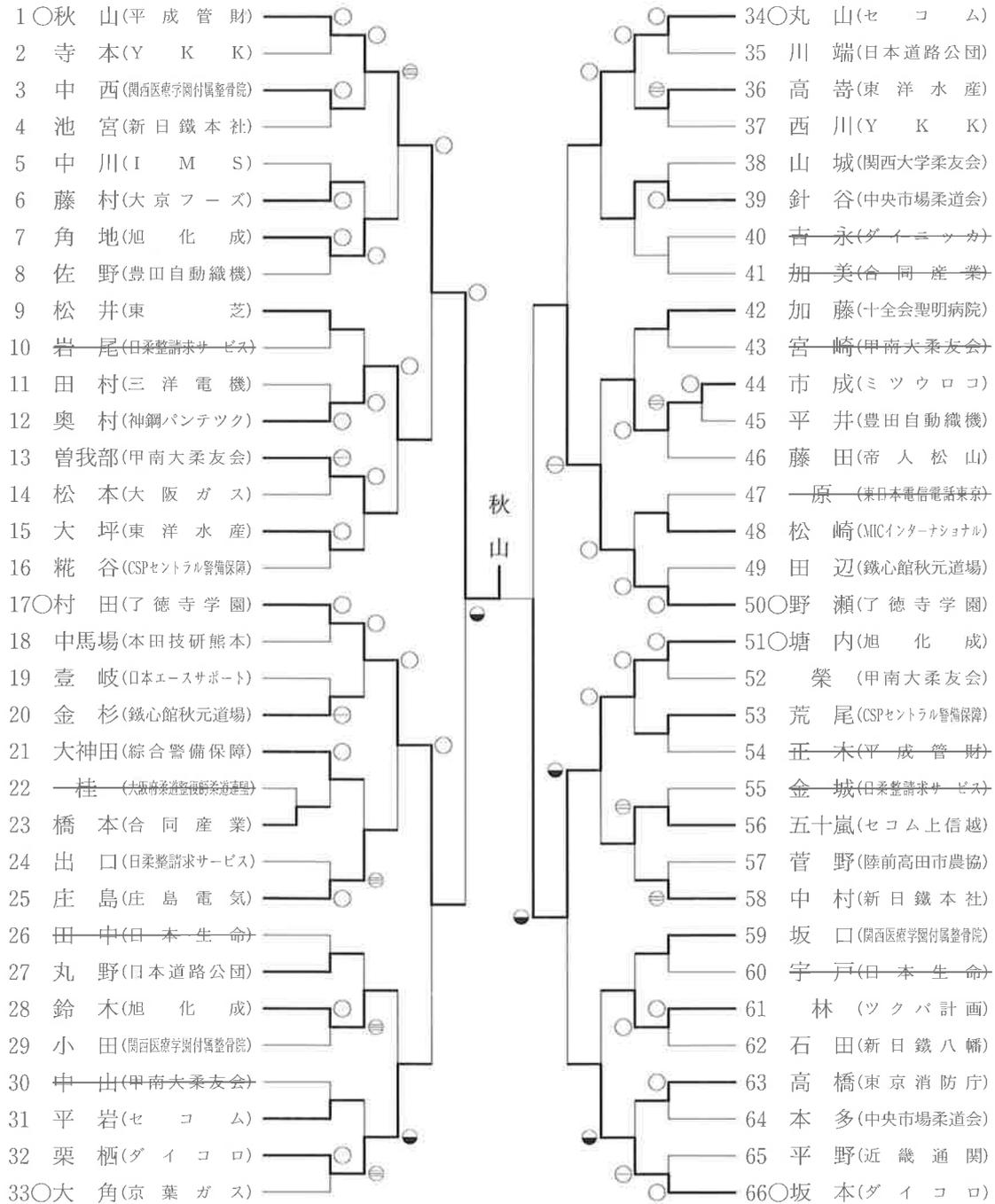
男子90kg級(70名)



○印はシード選手

組み合わせ

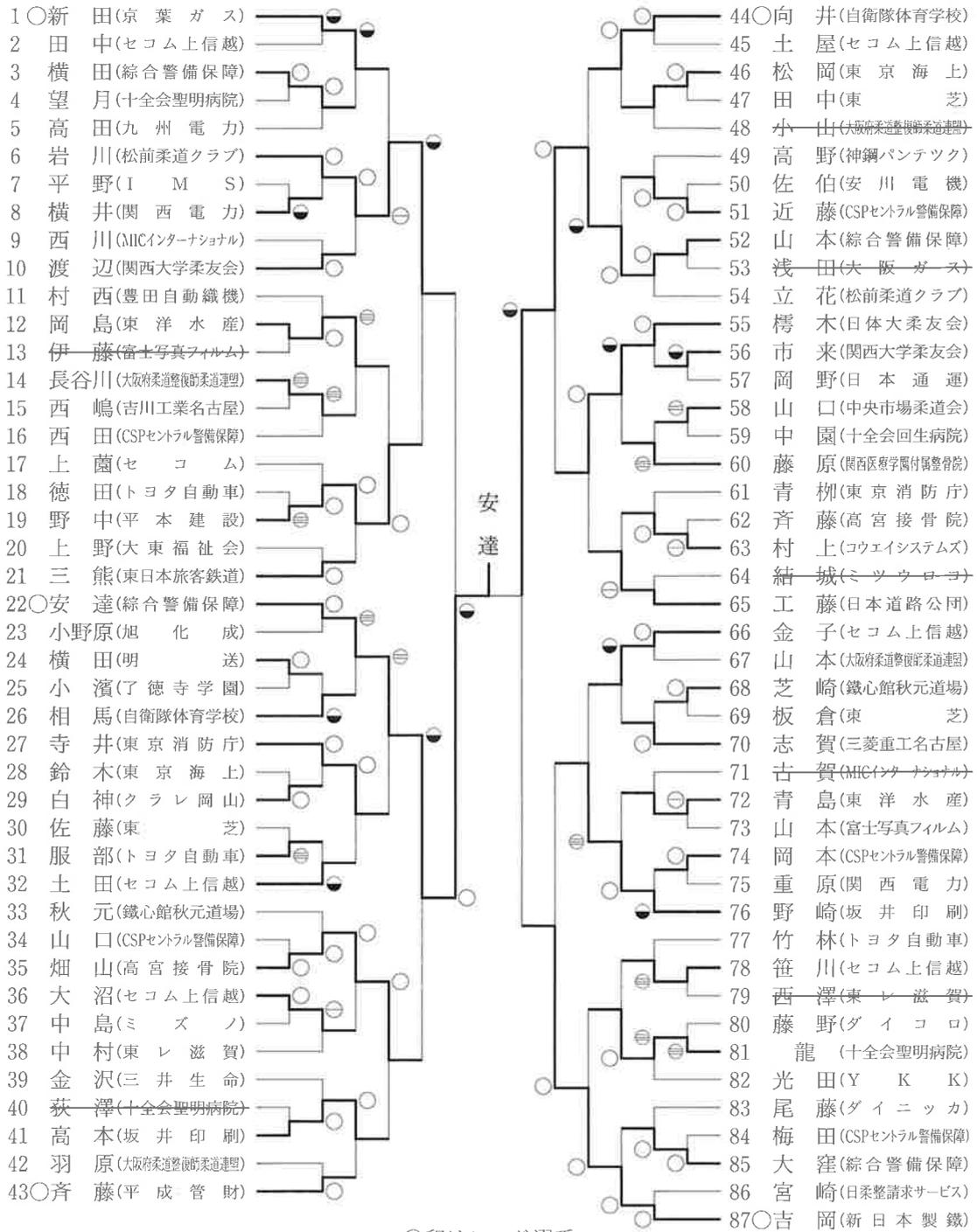
男子81kg級(66名)



○印はシード選手

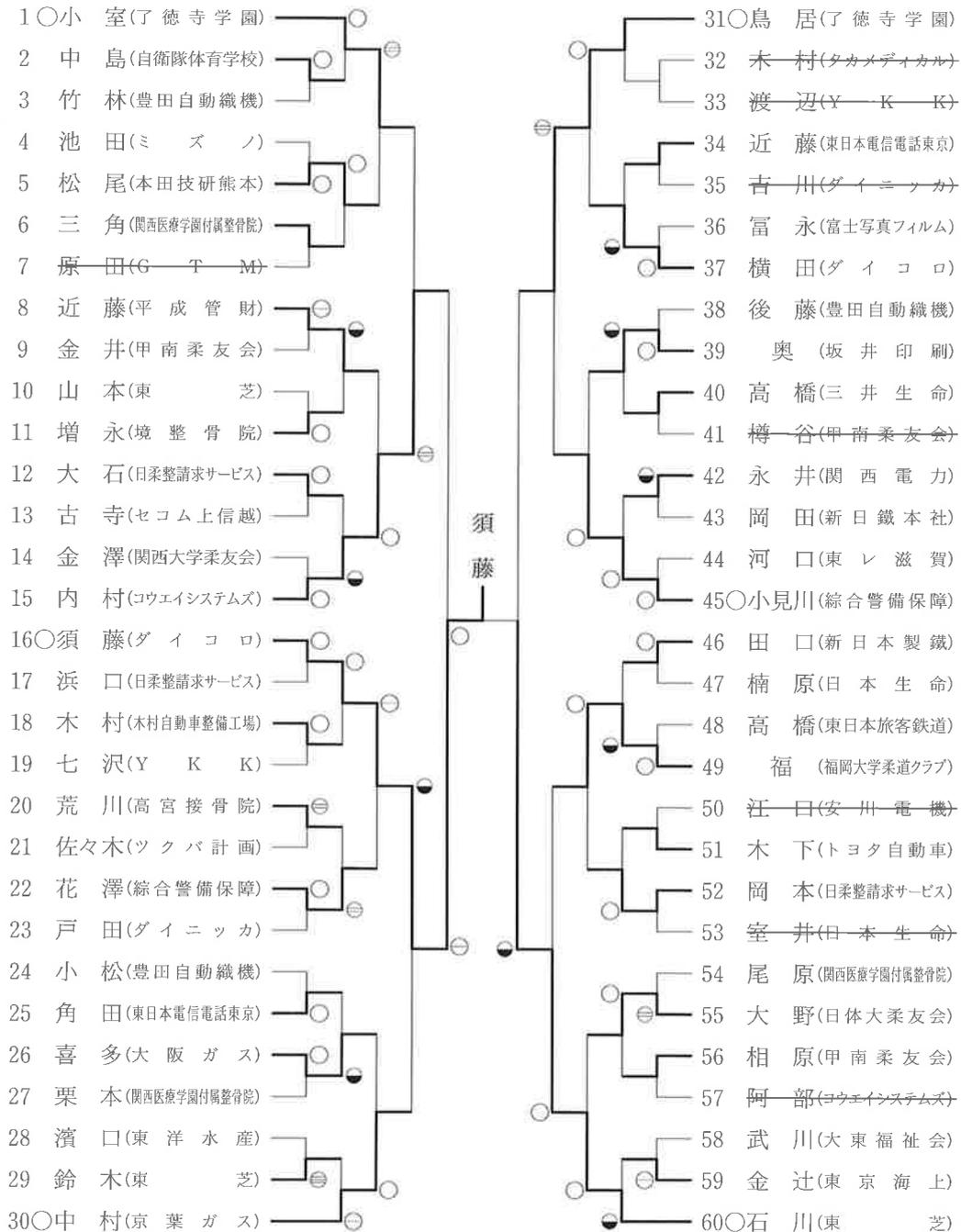
成績表

男子73kg級(87名)



成績表

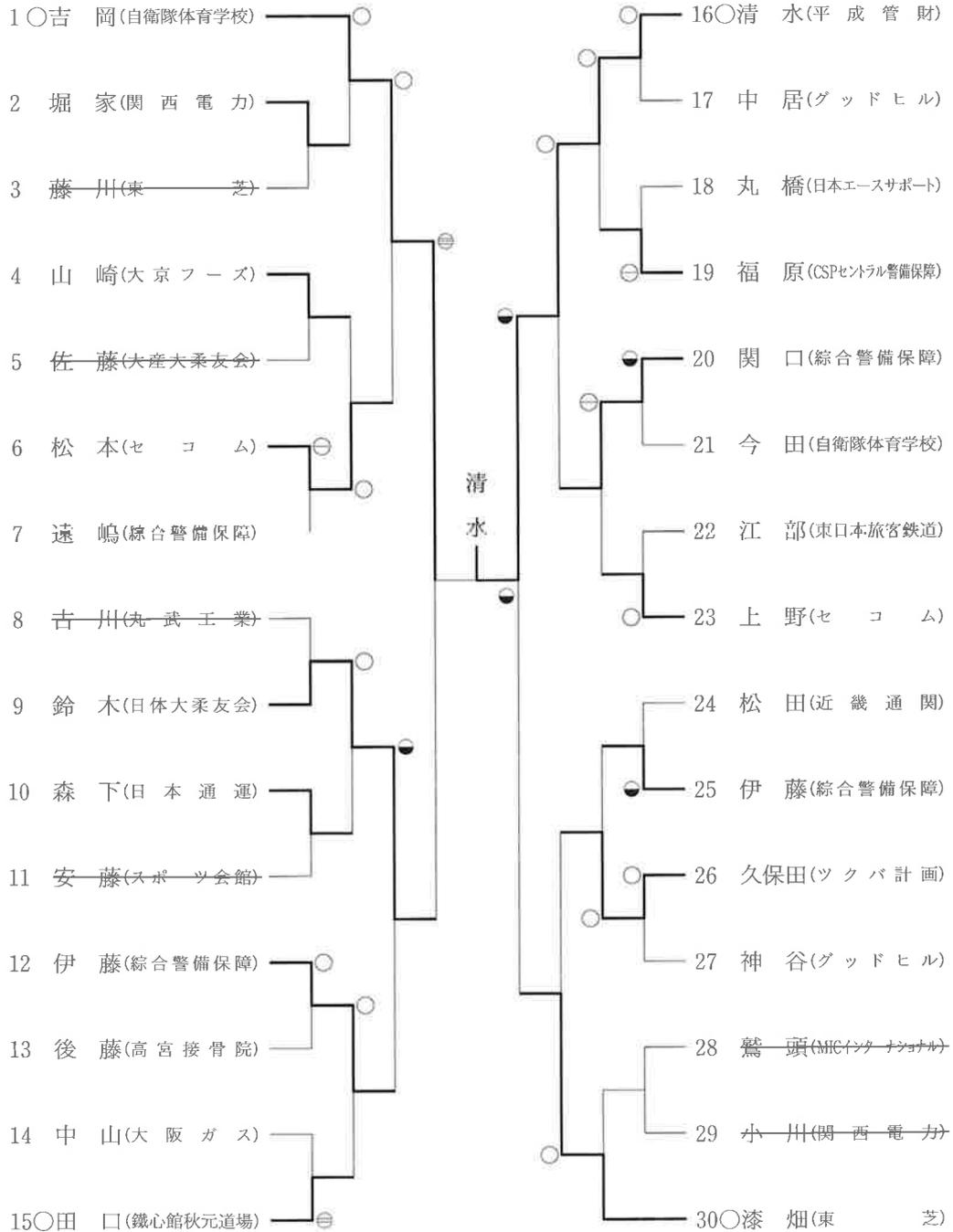
男子66kg級(60名)



○印はシード選手

成績表

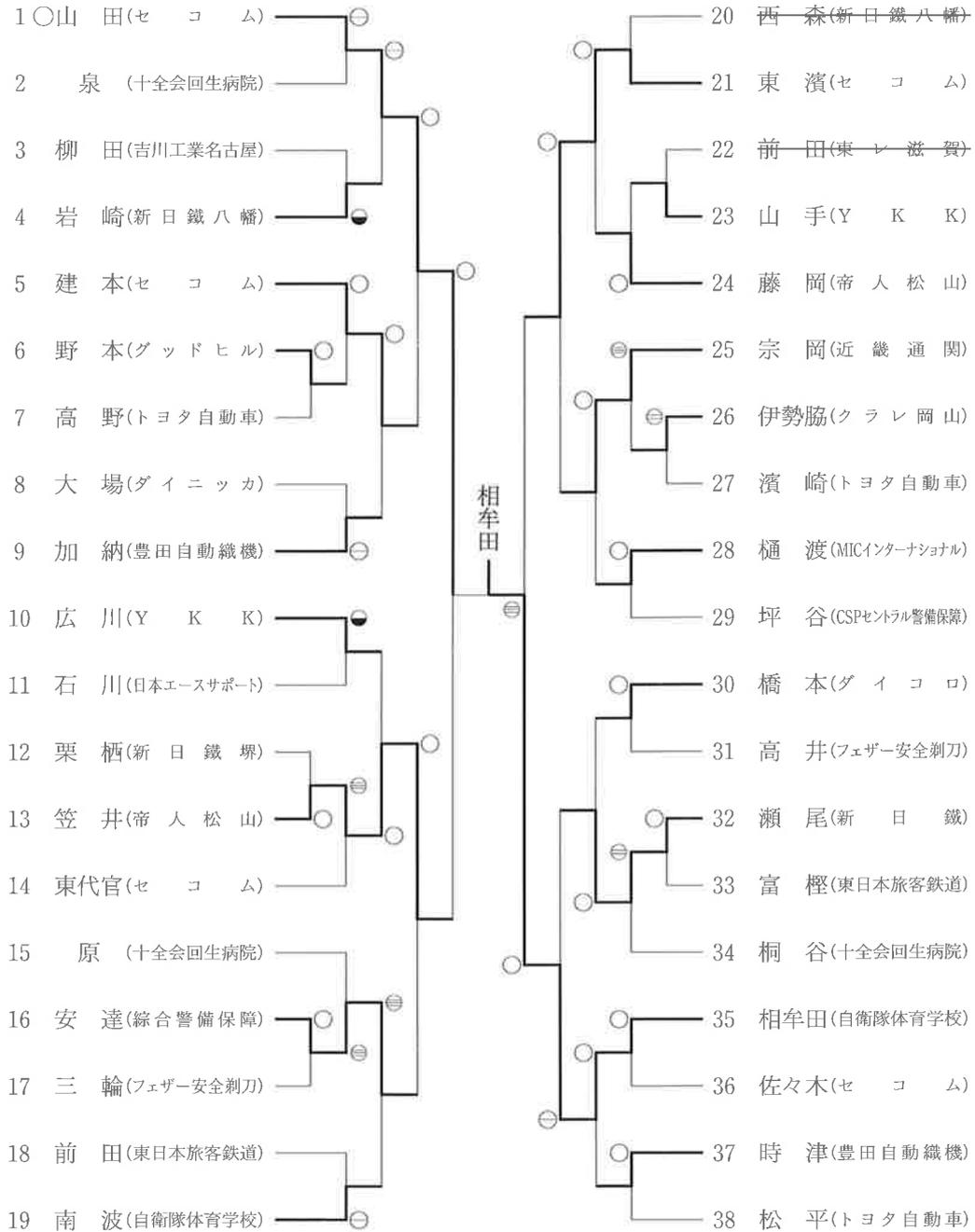
男子60kg級(30名)



○印はシード選手

成績表

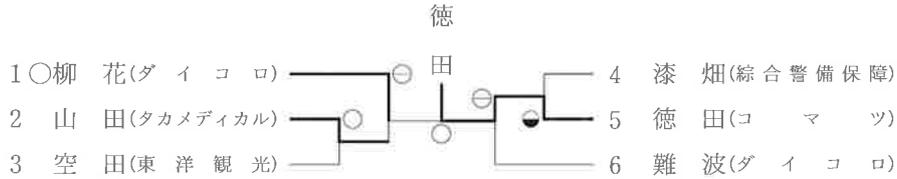
男子22才未満(38名)



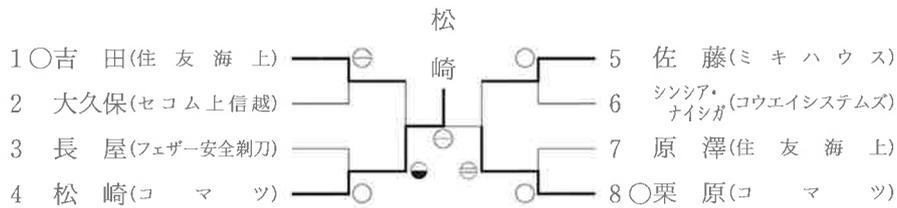
○印はシード選手

成 績 表

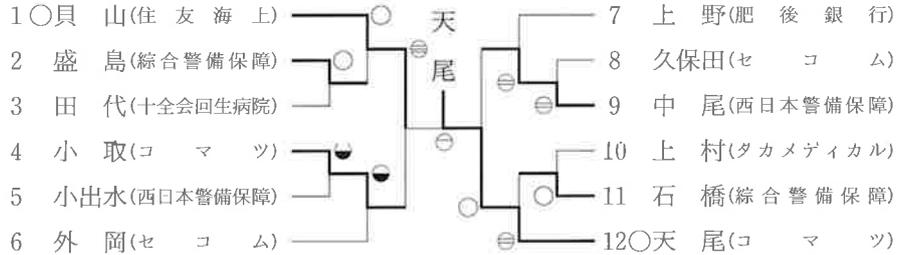
女子78kg超級(6名)



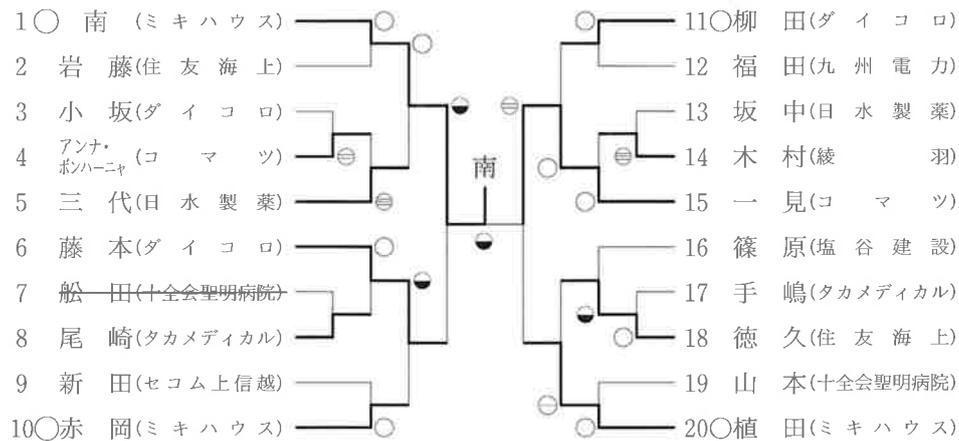
女子78kg級(8名)



女子70kg級(12名)



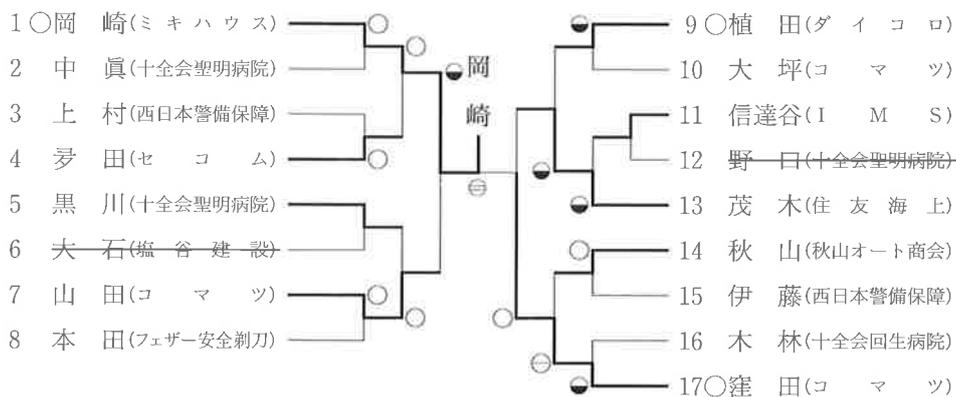
女子63kg級(20名)



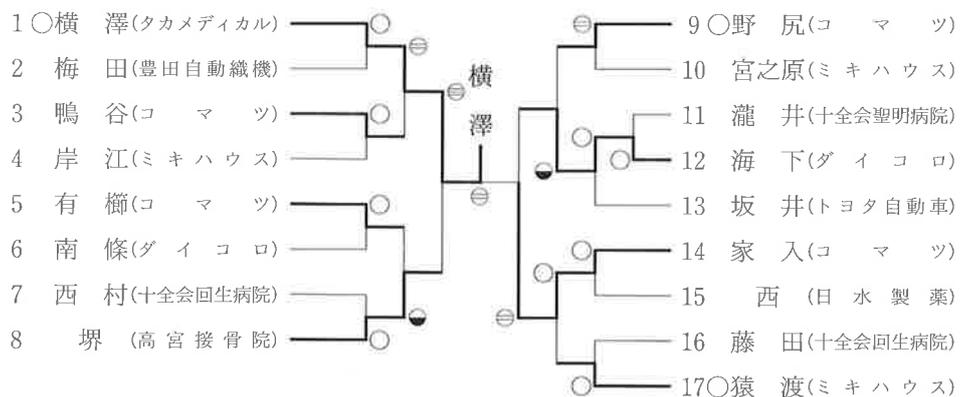
○印はシード選手

成 績 表

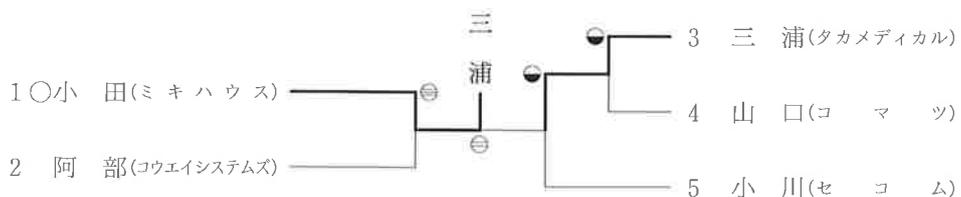
女子57kg級(17名)



女子52kg級(17名)



女子48kg級(5名)



○印はシード選手

「スキルアップセミナー」開催される

全日本実業柔道連盟「第1回スキルアップセミナー」が、9月15日(土)大阪・ミキハウススポーツスタジアムにおいて開催された。これは、連盟所属の指導者の指導力向上および現役選手の競技力向上を目的としたもので、(株)大崎企業スポーツ事業研究助成財団の支援を受けて実施された。参加者は75名。

今回は東海大学の高妻容一先生に、メンタルトレーニングについての講義・実技を指導していただくとともに、天理大学の細川伸二先生と全柔連男子強化コーチの大迫明伸先生に、技の指導を実技を交えて詳しくご指導いただき、非常に有意義な講習会となった。

なお、第2回は11月17日(土)東京・講道館において開催される予定。

△講師及び内容▽

高妻容一先生(東海大学)

・メンタルトレーニングとは何か?メンタルトレーニングとはどんなことをするのか?を講義やビデオおよび実技を取り入れながら細かく解説された。リラクゼーションやイメージトレーニング、集中力を高める方法、プラス思考(ポジティブシンキング)、セルフトーク(自己会話)等々、試合で最高の実力を発揮するための精神力の強化として、今後益々注目される講習内容であった。

細川伸二先生(天理大学)

大迫明伸先生(全日本柔道連盟男子強化コーチ)
・細川先生による巴投げの入り方や大迫先生による組み手のポイント等、実技を交えながら詳しく指導された。



講習会の参加者



高妻容一講師



細川伸二講師



大迫明伸講師

2001年6月発刊

グラビアでは実業団大会の名場面、平成の強豪・名門の顔、実業戦士たちの紹介をはじめ、会長とメダリスト達の座談会、大会記録、海外遠征特集、会員企業柔道部の紹介、うちの柔道部等、企業の集合写真を多数掲載。日本柔道を支える企業柔道人の躍動する姿が伝わってくる。

実業柔道が柔道界に果たしつづけた貢献の偉大さを実感できる、素晴らしく価値ある大冊の完成です。

A4判(297×210mm) 上製本 440頁
定価 5,000円(送料別)

※お申し込みは下記事務局まで。



40周年誌発刊から10年 実業柔道50年の記録

全日本実業柔道連盟

〒100-8400
東京都千代田区有楽町一丁目二旭化成(株)内
TEL 03(3355)0720
TEL 03(3355)0720
FAX 03(3355)2494
E-mail: haruyama.tb@om.asahi-kasei.co.jp

発行日 2001年9月29日
発行人 全日本実業柔道連盟
印刷 事務局 郷田博史
ダイコロ株式会社